

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4090400104		
法人名	社会福祉法人 正勇会		
事業所名	グループホーム ソレイユの丘		
所在地 (電話番号)	〒803-0836 福岡県北九州市小倉北区中井一丁目7番 - 14号 (電話) 093 - 562 - 2000		
評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴二丁目5 - 27		
訪問調査日	平成21年3月3日	評価確定日	平成21年3月18日

【情報提供票より】(平成21年2月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成20年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8	常勤(専任 7人 兼務 1人) 非常勤0人 常勤換算 8人	

(2) 建物概要

建物形態	(併設) / 単独	(新築) / 改築
建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	2 階建ての	階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) (198,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	(有) / 無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	600 円
	夕食	600 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成21年2月10日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	6 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名	
要介護3	2 名	要介護4	2 名	
要介護5	0 名	要支援2	0 名	
年齢	平均 84 歳	最低	73 歳	最高 92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	久米内科クリニック ・ ヤマチ歯科医院 ・ 田辺内科精神科医院
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ソレイユの丘は住宅地の小高い丘の上の複合福祉施設の中にあるグループホームである。自動ドアの玄関から入ると、利用者が大切に飼っている水槽の中の大きな金魚の出迎えを受け、床暖房のリビングでは、利用者が自由にのびのびと、職員と一緒に生活を楽しんでいる。職員全員で考えて作った理念をホームの介護の柱として、一人ひとりが理解して実践している姿は頼もしく、力強く見える。開設11ヶ月ではあるが、職員は利用者や家族とのコミュニケーションを図り、様々な問題を解決し、強い絆が出来ている。また、利用者の意向を反映したレクリエーションや外出の支援をし、健康管理体制も整っている。地域の小学生グループお助けマン(小学生14人のボランティア)とアニマルセラピーは利用者の楽しみの一つで、穏やかな表情で日々を暮らせるような配慮がされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初めての外部評価調査である。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は評価の意義を理解し、自己評価は一人で作成している。職員全員が自己評価の意義を理解し、改善に向けた活用が出来るように、管理者は職員に評価の意義を説明し、分担して自己評価を作成し、管理者が取りまとめる。また、評価結果報告書を回覧して職員一人ひとりが、自覚し、改善に向けて努力していくことを期待したい。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は4ヶ月毎に開催し、利用者家族、自治連合会会長、民生委員、地域包括支援センター職員、管理者等で構成し、活発な意見交換会であったことが、議事録に記録されている。今後は会議が報告会や意見交換会で終わることなく、ホームの運営に反映していく、重要な会議として発展していくために、会議の中味を魅力的なものにし、構成委員の積極的な参加と協力を得ていくことが望まれる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	重要事項説明書に苦情に関する公的機関、ホーム窓口、担当者名を明示し、玄関に意見箱を設置しているが、ほとんど出てこない。家族の心情は、お世話になっているので苦情までは言えないところを察して、家族の悩み、心配事など話し合える家族会を設立して、気楽に家族の意見として言える雰囲気をつくり、出された意見は、出来るだけ反映できるように工夫していくことが望まれる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、法人内の職員に町内会の役員がいて、桜交流会、敬老会、文化祭等市民センター行事等の情報や案内をもらい、利用者と職員は積極的に参加している。小学生14人によるボランティアお助けまんと交流したり、ホーム主催の夏祭りには地域の方にも案内し、少しずつ、地域との交流が始まっている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設前の研修時に、職員全員で、「笑顔を絶やさず、思いやりを持って接し、自分らしい希望のもてる生活が送れるよう応援します。」という理念を作りあげた。法人の理念の中で地域との連携を謳い、玄関には二つの理念を掲示している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員で作上げた理念は、全員が共有出来ている。目につくところに理念を掲示し、管理者、職員は常に自分を振り返りながら、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、桜交流会、敬老会、文化祭など、市民センターの行事等に参加している。また、法人と合同で行う夏祭りには、地域の方にも案内し、参加してもらっている。小学生14名によるボランティアグループ「おたすけマン」との交流など、地域との交流が始まっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、評価の意義を理解しているが、職員の理解は周知されていない。	○	職員一人ひとりが、評価の意義を理解し、自己評価作成に取り組み、外部評価結果報告書を見て、改善に向けて工夫していくことが望まれる。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は4ヶ月に1回開催し、利用者家族、自治連合会会長、民生委員、地域包括支援センター職員、管理者などで構成している。会議では、ホームの活動、利用者の状況などの報告のほか、参加者からは活発な意見が出されている。		今後は、2ヶ月毎の定期開催と、マンネリ化しないような会議にしていく工夫が望まれる。
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	夏祭りや餅つきなどの行事に参加してもらっているが、市町村と連携する機会が少ない。	○	機会ある毎に市の担当者と情報交換し合い、ホームのすぐ下にある市民センターでの介護教室などに、ベテランの介護職員を講師として派遣するなど、市との協働事業の取り組みを進めていくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	権利擁護に関する制度の理解活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	以前、成年後見制度の該当利用者があり、制度について学ぶ機会が多くあり、管理者、職員は理解し、必要な方についても説明出来る体制があり、活用できるように資料を揃え準備している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヶ月に1回「ソレイユだより」で利用者の様子を伝えていく。また、面会時に介護記録などを見て頂くなどして、利用者のホームでの日々の暮らしぶりや健康状態を伝えていく。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させていく	サービスに関する相談や苦情の窓口として、区役所の保健福祉課介護保険係、県国民健康保険団体連合会などの公的機関と、ホーム利用相談室を明示し、玄関に意見箱も設けているが、意見、苦情はなかなか出てこない。	○	「お世話になっている」と思う家族の心情を察して、出来るだけ家族が相談し易い雰囲気作りに努め、また、家族だけで、悩み、心配ごとなどを話し合える家族会を設立し、家族会として、要望や苦情をホームに伝えていくことが望まれる。
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は少なく、利用者や職員が馴染みの関係を作り、職員の異動による利用者へのダメージを最小限に保っている。		
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は職員の募集採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の採用にあたっては、性別や年齢などの制限はない。事業所で働く職員については、お昼休みを一時確保するなど、働きやすい環境作りに努めている。今後は、職員がゆっくりと休むことのできる休憩室の確保を目指している。		
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員などに対する人権を尊重するために、職員などに対する人権教育、啓発活動にとりこんでいる	管理者や職員は「利用者は人生の先輩」として尊敬をもって接し、利用者のプライバシーを守りながらのケアを心がけている。	○	人権についての研修を定期的に行うことで、職員の人権に対する意識を高めると共に、運営推進会議の中で人権の勉強会を開くなどして、啓発活動に繋げていくことが望まれる。
5. 人材の育成と支援					
13	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修会については、年間の研修計画をたて実践している。また、外部研修については、全職員がいるような研修会に参加できるよう、環境を整備し、職員のスキルアップに繋げている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者とは、外部研修会を通じて個人的に情報交換をしているが、相互訪問などの活動はない。	○	福岡県グループホーム協議会などに加入し、情報交換や勉強会を実施し、職員の相互訪問や勉強会などを通じて、地域の介護サービスの質の向上を目指す取り組みを期待したい。
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者が、デイサービスやショートステイを利用している際に、管理者や職員が利用者宅を訪問し、声かけを行うことで馴染みの関係ができ、ホームでのサービス利用に繋げていくことが、出来るよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、人生の先輩である利用者の知恵を学んだり、掃除や洗濯を一緒にし、お互いの信頼関係の中で利用者や職員は家族の一員として、支えあう関係が出来ている。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者が今何をしたいのかを把握するため、時間をかけて聴き取っている。意向の表出の出来ない利用者は、日々の表情やつぶやきも見逃さないように記録し、介護記録や、家族の方からの情報提供などから、思いや意向の把握に努める。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	1ヶ月に1回のミーティングで、職員が意見を出し合い、利用者、家族の要望を聞きながら介護計画を作成している。		
19	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、3ヶ月ごとに見直しをしている。利用者の状態の変化が生じた場合は速やかに対応し、その都度、利用者や家族に承諾を得て見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	「正月を自宅で」という利用者の要望や、墓参り、病院、理・美容の付き添い、外食、レクリエーションなど、可能な限り、利用者や家族の要望に応じて支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医がかかりつけ医であり、24時間体制を整え、また法人の看護師とも連携することにより、利用者が安心して暮らし続けることの出来るよう支援している。今後、医療加算をとって健康管理を万全なものにする計画がある。		
22	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の状態変化に合わせて、家族、主治医、職員が話し合い、方針を共有している。	○	ターミナルケアの指針を作り、利用者の状態変化に合わせて、その都度方針を話し合って決めていくことが望まれる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の声かけは静かで優しく、利用者一人ひとりの誇りを傷つけないよう対応している。また、個人ファイルは鍵のかかる場所に保管している。		
24	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自宅で生活していた時と同じように生活出来るように、戸外に出掛けたり、園芸をしたりと、利用者一人ひとりの希望に沿って支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は、食事の準備や盛り付け、配膳、下膳などを一緒にしながら、同じテーブルに着き、同じものを美味しく食べている。特に盛り付けは、食欲をそめるように工夫し、時間をかけて食事をしている。また、料理上手な利用者や、味噌汁や酢の物、デザートなどを一緒に作る計画がある。		
26	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3回は入浴してもらうように声をかけをし、出来るだけ利用者の希望に添えるよう支援している。入浴を渋りがちな利用者に対しては、他の利用者に声をかけて誘ってもらおうなどして、手伝ってもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アニマルセラピー、金魚の餌やり、園芸、日曜大工、レクリエーションなど、役割、楽しみごとの支援をしている。また、これからは、月に1~2回の地域の清掃活動に参加する予定である。		
28	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、遊歩道を通して市民センターに立ち寄って40分程かけて歩くのが一日の散歩コースとなっている。現在利用者専用の送迎車がないので、急な外出に対応できる車の確保を検討している。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者や職員は、鍵をかけることの弊害を理解しているが、人手がなく戸外の付き添いが出来ないときは、安全のために玄関の鍵をかけることもある。玄関にセンサーをつけ、利用者の出入りがわかるようにして、出来るだけ鍵をかけない工夫をしている。		
30	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人母体のホームと一緒に、日中、夜間を想定した避難訓練を実施している。	○	地域の方の協力を得て、夜間を想定した避難訓練を実施し、また、災害に備えた非常食、飲料水、毛布等の備蓄が望まれる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は利用者の食事、水分の摂取量のチェックを行い、一日のトータルを把握している。水分の足りない利用者にはゼリーなどを提供するなど、職員は、利用者一人ひとりの状態に合わせた細やかな支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	床暖房で足元が温かく、リビングの3分の1は畳敷きで利用者がゆったりと穏やかに過ごせるよう工夫している。また、お雛様や折り紙などの飾りつけで生活感や季節感を取り入れている。		
33	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は和風に作られていて、障子からは柔らかな日差しが差し込んでいる。利用者の希望でベッド、畳のどちらかを自由に選ぶことができる。また、利用者の使い慣れた物や、好みのものを持ち込んでもらい、利用者が居心地よく過ごせるよう支援している。		